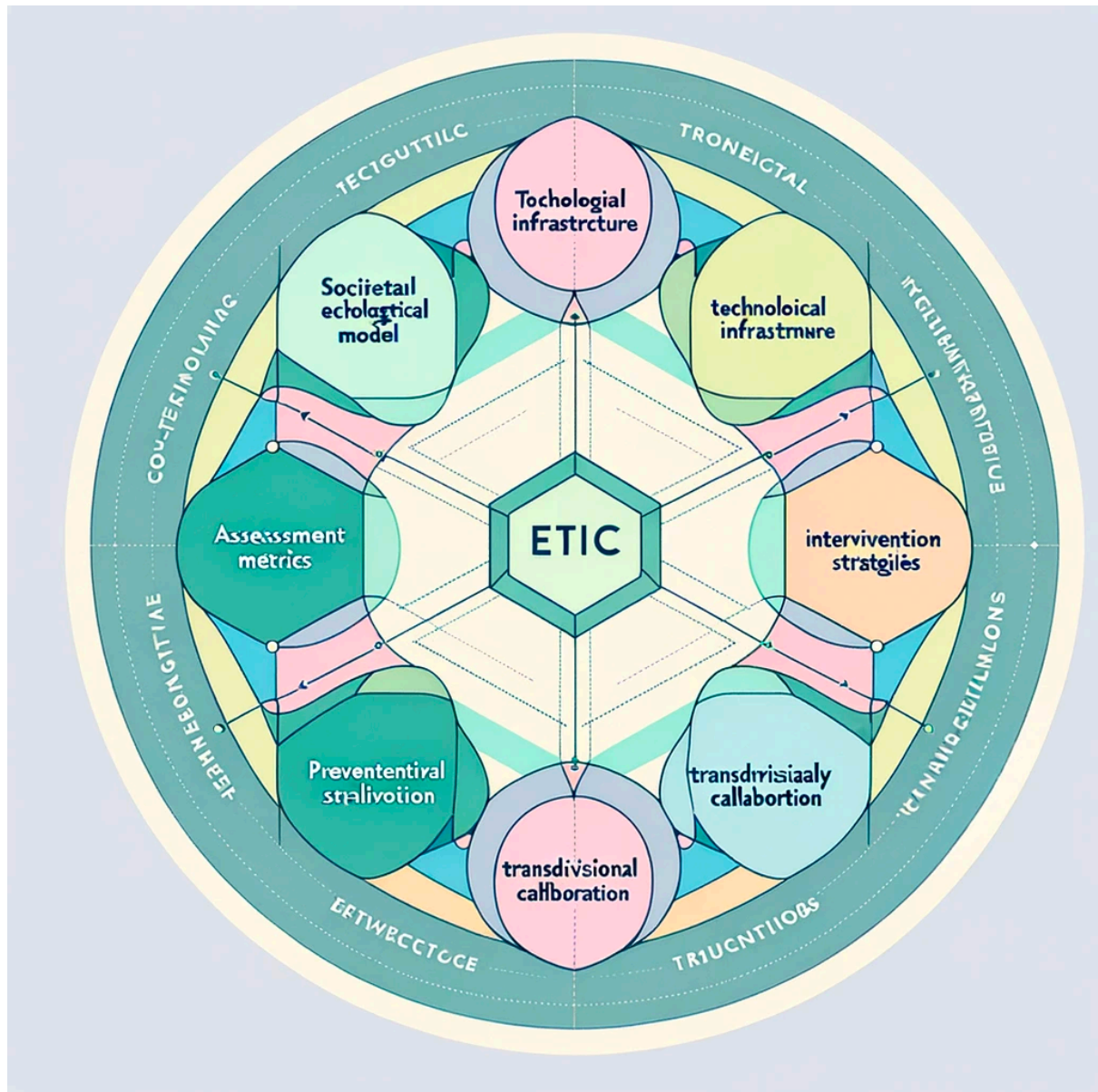


エコテクノロジーカル・インテグラティブ・ケア (Eco-Technological Integrative Care, ETIC)

未来の作業療法とケアテクノロジストのリーダーシップ



概要：このレポートは、作業療法における「エコテクノロジーカル・インテグラティブ・ケア（ETIC）」という新たなパラダイムを提案し、その内容を掘り下げています。エコシステム中心のアプローチ、計量評価、予測的・予防的ケア、グローバルな影響、トランスディシプリンの協働を基盤として、社会エコロジカルモデル、テクノロジーカルインフラストラクチャ、評価メトリクス、予防的介入戦略を組み合わせています。さらに、ケアテクノロジストとしての新しい専門職のリーダーシップに必要な多角的な視点と知識、スキルを強調し、未来への展望を提示しています。

はじめに

作業療法とは、人の作業を意味や価値のあるものとして捉え、その人らしさを支援する専門職です。作業療法は、時代や社会の変化に応じて、その基本的な考え方や実践のあり方を変えてきました。しかし、現代の社会は、複雑で多様で不確実なものになっています。気候変動や環境破壊、人口の増減や高齢化、グローバル化やデジタル化、そしてAI化など、さまざまな課題や影響が人々の生活に及んでいます。これらの課題や影響に対応するために、作業療法は、新しいパラダイムを必要としています。このレポートでは、作業療法の新しいパラダイム「エコテクノロジーカル・インテグラティブ・ケア(ETIC)」を提案し、その理論的枠組みと実践的応用を解説します。

ETICとは、エコシステム中心、計量評価、予測的・予防的ケア、グローバルな影響、トランスディシプリンという5つのキーワードによって特徴づけられる新しいパラダイムです。ETICは、人々の生活をより広く深く支援することを目指します。1章では、ETICの誕生とその概観について説明します。ETICの理念や目的、特徴やメリットについて紹介します。2章では、ETICの構成要素として、社会エコロジカルモデル、テクノロジーカルインフラストラクチャ、評価メトリクス、予防的介入戦略、トランスディシプリナリー・コラボレーションの5つを紹介します。それぞれの構成要素が何を意味し、どのようにケアに関わるかを説明します。3章では、ETIC時代における専門職のリーダーとして、ケアテクノロジストがどのような知識、スキル、理念を持つべきかを探求します。ケアテクノロジストに必要な多角的な視点、多様な知識とスキル、実践的な知識と革新技术、深い理解と情熱について説明します。4章では、ETICを実現するための具体的な取り組み、ETICがもたらす社会的インパクトや課題、そして今後の展望を概説します。付録1では、本文の追加資料として作業療法の歴史的背景や現在の状況、課題や展望などを概観します。作業療法パラダイムの変遷について、道徳療法パラダイム、機械論的パラダイム、作業科学パラダイム、占有パラダイムの4つの時代を紹介します。作業療法の定義や役割、効果についても触れます。付録2ではETICモデルにおいて重要なテクノロジーカルインフラストラクチャの一部として作業療法のAIチャットボットについて解説します。作業療法の理念に沿ったチャットボットの役割、作業療法プログラムに特化したAIチャットボットの開発と実装について触れます。

このレポートを通じて、専門家だけでなく、広い層の読者にもETICについて理解を深めてもらい、新しいケアの時代への理解と準備を促します。ETICは医療とケアの全体像に革命をもたらし、持続可能で公平なケアの実現を目指します。

目次

第1章:ETICの誕生 - 新たなパラダイムの概観

- エコシステム中心のアプローチ：従来の人間中心からエコシステム中心へのシフト
- 計量評価の重要性：質的評価から計量評価への移行とその意義
- 予測的・予防的ケア：反応的ケアから予測的・予防的ケアへの変革
- グローバルな影響への展開：局所的介入からグローバルな影響への拡張
- トランスディシプリンへの進化：モノディシプリンからトランスディシプリンへの進化

第2章:ETICの構成要素

- 社会エコロジカルモデル：患者の社会的・環境的要因への配慮
- テクノロジカルインフラストラクチャ：先進技術を活用したケアの基盤
- 評価メトリクスの確立：効果測定のための新しい指標と方法
- 予防的介入戦略：リスクの早期特定と介入戦略
- トランスディシプリナリー・コラボレーション：多様な専門家間の協働

第3章:ETICとケアテクノロジスト

- 多角的な視点の重要性：ケアテクノロジストに必要な多角的な視点
- 多様な知識とスキルの統合：医療技術、倫理、人文学、システムエンジニアリング、データ科学への理解
- 実践的な知識と革新技术の融合：AI、ロボット技術、データ解析、システム設計の精通
- 深い理解と情熱：患者の生活の質を高める目的へのコミットメント

第4章:ETICの実装と未来への展望

- ETICの具体的な実施方法：理論から実践への橋渡し
- 持続可能で公平なケアの提供：社会におけるETICの役割
- ケアテクノロジストの育成と育成プログラム：未来のリーダーの育成
- 継続的な改善とイノベーション：技術進化に伴うケア方法の更新
- ETICの未来展望：今後の発展と課題

付録1：作業療法のパラダイムの変遷と現状の課題点

- 作業療法パラダイムとは
- 道徳療法パラダイム
- 機械論的パラダイム
- 作業科学パラダイム
- 占有パラダイム
- 作業療法の定義の変化
- 作業療法のエビデンスの不足
- 作業療法の普及と振興の課題

付録2：作業療法AIのチャットボットの開発

- AIチャットボットの役割
- AIチャットボットの開発と実装

第1章：ETICの誕生

1章では、エコテクノロジーカル・インテグラティブ・ケア(Eco-Technological Integrative Care, ETIC)の誕生とその概観について説明します。ETICとは、エコシステム中心、計量評価、予測的・予防的ケア、グローバルな影響、トランスディシプリンという5つのキーワードによって特徴づけられる新しいパラダイムです。

- ・ **エコシステム中心のアプローチ**：従来の人間中心からエコシステム中心へのシフトを解説します。エコシステムとは、人間を含む生物とその環境の相互作用のシステムです。ETICでは、人間だけでなく、その周囲の生物や環境にも配慮し、持続可能で公平なケアを提供することを目指します。例えば、気候変動や環境破壊による人間の健康への影響を考慮したり、生物多様性や自然資源の保護に貢献したりします。作業療法が個々の人間に焦点を当てていたのに対し、人々が属する社会や環境全体を対象とする考え方が増加しています。これは社会的決定論（Social Determinants of Health）のような考えにもつながります。
- ・ **計量評価の重要性**：質的評価から計量評価への移行とその意義を説明します。計量評価とは、数値や指標によってケアの効果や品質を測定することです。ETICでは、計量評価を用いて、ケアの効率や効果を客観的に評価し、改善することを重視します。例えば、先進技術やデータ分析を活用して、ケアのプロセスやアウトカムを可視化したり、最適化したりします。データサイエンスの進展により、これまで質的に評価されていた健康状態や能力も計量的に評価できるようになる可能性があります。
- ・ **予測的・予防的ケア**：反応的ケアから予測的・予防的ケアへの変革を紹介합니다。反応的ケアとは、病気や障害が発生した後に対処するケアです。予測的・予防的ケアとは、病気や障害の発生を予測し、予防するケアです。ETICでは、予測的・予防的ケアを推進し、病気や障害の発生や悪化を防ぎ、健康や幸福を維持することを目指します。例えば、遺伝子や生活習慣などの情報をもとに、個人のリスクやニーズを予測し、オーダーメイドのケアを提供したり、早期発見や早期介入を行ったりします。これまでの作業療法は多くが病気や障害が発生した後のリハビリテーションに重点を置いていましたが、将来的にはAI

などの予測分析によって問題を事前に予防するアプローチが主流になるかもしれません。

- ・ **グローバルな影響への展開**：局所的介入からグローバルな影響への拡張を説明します。局所的介入とは、個人や集団のレベルでのケアです。グローバルな影響とは、社会や地球のレベルでのケアです。ETICでは、局所的介入だけでなく、グローバルな影響も考慮し、ケアの範囲や対象を拡大することを目指します。例えば、国境や文化を越えたケアの提供や交流を行ったり、地球規模の課題や目標に貢献したりします。テクノロジーが進化することで、作業療法の知見や手法が一地域や一国に留まらず、グローバルに展開・適用される可能性が出てきます。
- ・ **トランスディシプリンへの進化**：モノディシプリンからトランスディシプリンへの進化を紹介します。モノディシプリンとは、一つの分野や専門領域でのケアです。トランスディシプリンとは、複数の分野や専門領域を超えたケアです。ETICでは、トランスディシプリンへの進化を推進し、ケアの質や多様性を向上することを目指します。例えば、医療やケアだけでなく、人文学や工学などの分野と連携したり、患者や家族だけでなく、コミュニティやステークホルダーとも協働したりします。知識や専門性の垣根が低くなることで、作業療法だけでなく他の多くの分野と連携し、その境界を曖昧にする「トランスディプリナリー」なアプローチが求められます。

このようにETICは、作業療法の新しいパラダイムとして、従来のケアの枠を超えて、より広く深く人々の生活を支援することを目指します。「エコテクノロジカル・インテグラティブ・ケア（ETIC）」というオブジェクトに対するサブオブジェクトとして考えられる要素には、いくつかの異なる側面が存在します。これらは構成矛盾を生じないように、互いに整合性を持たせる必要があります。

第2章：ETICの構成要素

2章では、ETICの構成要素として、社会エコロジカルモデル、テクノロジカルインフラストラクチャ、評価メトリクス、予防的介入戦略、トランスディシプリナリー・コラボレーションの5つを紹介します。

- **社会エコロジカルモデル（Social Ecological Model）**：患者の社会的・環境的要因への配慮を説明します。社会エコロジカルモデルとは、人の健康や行動に影響を与える、個人的、対人的、組織的、地域的、社会的なレベルの要因を包括的に分析するモデルです。ETICでは、社会エコロジカルモデルを用いて、患者の作業遂行に関わる多様な要因を把握し、それらに応じたケアを提供することを目指します。例えば、患者の個人的な特徴やニーズ、家族や友人との関係、職場や学校といった組織の文化や規則、住んでいる地域の資源やサービス、社会的な規範や政策などを考慮します。
- **テクノロジカルインフラストラクチャ（Technological Infrastructure）**：先進技術を活用したケアの基盤を紹介します。テクノロジカルインフラストラクチャとは、ケアのプロセスやアウトカムを支える、情報通信技術や人工知能、ロボット技術などの技術的な基盤です。ETICでは、テクノロジカルインフラストラクチャを用いて、ケアの効率や効果を向上させるとともに、新しいケアの形を創出することを目指します。例えば、スマートフォンやウェアラブルデバイスを使って、患者の作業遂行や健康状態をモニタリングしたり、AIやロボットを使って、患者の作業遂行や生活支援を行ったりします。
- **評価メトリクスの確立（Assessment Metrics）**：効果測定のための新しい指標と方法を説明します。評価メトリクスとは、ケアの効果や品質を測定するための指標や方法です。ETICでは、評価メトリクスを確立し、ケアの成果や費用対効果を客観的に評価することを目指します。例えば、作業遂行や生活の質、社会参加などのアウトカム指標や、ケアの時間やコスト、満足度などのプロセス指標を設定し、データ分析や統計的手法を用いて、ケアの効果や改善点を明らかにします。
- **予防的介入戦略（Proactive Intervention Strategies）**：リスクの早期特定と介入戦略を紹介します。予防的介入戦略とは、病気や障害の発生

や悪化を防ぐための介入戦略です。ETICでは、予防的介入戦略を推進し、患者の健康や幸福を維持することを目指します。例えば、遺伝子や生活習慣などの情報をもとに、患者のリスクやニーズを予測し、オーダーメイドのケアを提供したり、早期発見や早期介入を行ったりします。

- ・ **トランスディシプリナリー・コラボレーション (Transdisciplinary Collaboration)**：多様な専門家間の協働を説明します。トランスディシプリナリー・コラボレーションとは、作業療法士、医師、看護師、心理学者、データサイエンティストなど、複数の分野や専門領域を超えた協働です。ETICでは、トランスディシプリナリー・コラボレーションを推進し、ケアの質や多様性を向上することを目指します。例えば、医療やケアだけでなく、人文学や工学などの分野と連携したり、患者や家族だけでなく、コミュニティやステークホルダーとも協働したりします。

ETICの構成要素は、相互に影響を与え合い、総合的なケア体系を形成することを前提とします（図）。

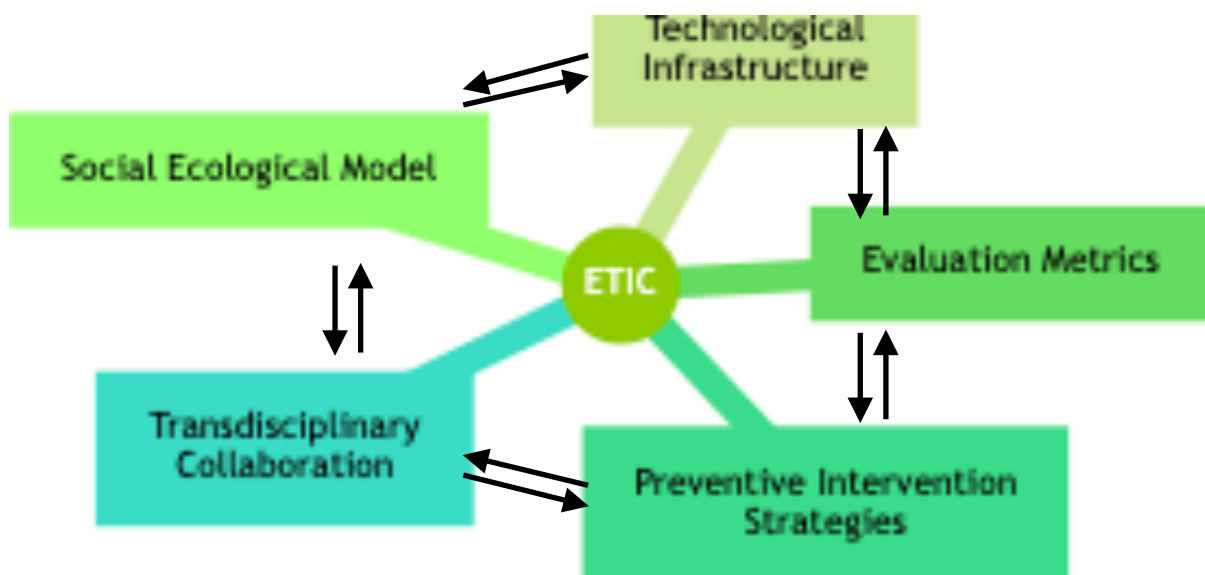


図 ETICの構成要素

社会エコロジカルモデル、テクノロジカルインフラストラクチャ、評価メトリクス、予防的介入戦略、トランスディシプリナリー・コラボレーションの5つで構成。構成要素は相互に影響を与え合い、総合的なケア体系を形成。

第3章：ETICとケアテクノロジスト

3章では、ETIC時代における専門職のリーダーとして重要とされるケアテクノロジストの役割に焦点を当て、それがどのような知識、スキル、理念を持つべきかを探求します。

- **多角的な視点の重要性**：ケアテクノロジストに必要な多角的な視点を説明します。多角的な視点とは、自分の専門分野だけでなく、他の分野や視点からも物事を捉えることです。ETICでは、多様な要因や影響に対応するために、多角的な視点が必要です。例えば、患者の個人的なニーズだけでなく、社会的なニーズや環境的なニーズも考慮したり、自分の分野の知識だけでなく、他の分野の知識も活用したりします。
- **多様な知識とスキルの統合**：医療技術、倫理、人文学、システムエンジニアリング、データ科学への理解を紹介します。多様な知識とスキルとは、ケアのプロセスやアウトカムを支える、さまざまな分野や領域の知識とスキルです。ETICでは、多様な知識とスキルを統合し、ケアの効率や効果を向上させるとともに、新しいケアの形を創出することを目指します。例えば、医療技術を用いて、患者の健康状態や作業遂行をモニタリングしたり、倫理を考慮して、患者の意思や権利を尊重したり、人文学を活用して、患者の文化や価値を理解したり、システムエンジニアリングを使って、ケアのシステムやプロセスを設計したり、データ科学を利用して、ケアのデータや分析を行ったりします。
- **実践的な知識と革新技术の融合**：AI、ロボット技術、データ解析、システム設計の精通を説明します。実践的な知識と革新技术とは、ケアの現場での実践的な知識と、先進的な技術の知識とスキルです。ETICでは、実践的な知識と革新技术を融合し、ケアの質や多様性を向上させるとともに、新しいケアの価値を創造することを目指します。例えば、AIを用いて、患者のリスクやニーズを予測したり、ロボット技術を使って、患者の作業遂行や生活支援を行ったり、データ解析を利用して、ケアの効果や改善点を明らかにしたり、システム設計を活用して、ケアのシステムやプロセスを最適化したりします。

- **深い理解と情熱**：患者の生活の質を高める目的へのコミットメントを紹介します。深い理解と情熱とは、ケアの目的や意義に対する深い理解と、それを実現するための情熱です。ETICでは、深い理解と情熱を持ち、患者の生活の質を高めることを目指します。例えば、患者の作業遂行や生活の質、社会参加などのアウトカムを重視したり、患者の意味や価値に基づいたケアを提供したり、患者や家族との関係を築いたり、ケアの改善やイノベーションに取り組んだりします。

ケアテクノロジストは、ETIC時代における専門職のリーダーとして、多角的な視点、多様な知識とスキル、実践的な知識と革新技術、深い理解と情熱を持つことが求められます。

第4章: ETICの実装と未来への展望

4章では、ETICの実践的応用、社会的影響、及び今後の方向性を概説します。

- ・ **ETICの実装に向けた具体的な取り組み**：ETICの実装は、社会エコロジカルモデル、テクノロジーカルインフラストラクチャ、評価メトリクス、予防的介入戦略、トランスディシプリナリー・コラボレーションという5つの核となる構成要素を中心に行います。具体的には、社会エコロジカルモデルを利用して患者の社会的・環境的背景を詳細に分析し、個別化されたケアプランを作成します。テクノロジーカルインフラストラクチャを駆使して、患者の健康状態をリアルタイムで追跡し、適時なフィードバックを提供します。評価メトリクスを活用し、介入の効果を定量的に測定し、必要に応じて改善策を講じます。
- ・ **社会的インパクト**：ETICは、作業療法の領域を拡張し、その有用性を社会に認知させる重要な役割を担います。具体的には、客観的な測定により作業療法の効果を科学的に検証し、EBM（エビデンスに基づく医療）の流れに沿ったケアを提供します。また、作業療法の原点に立ち返り、人の生活や存在の表現としての作業の意義を再評価します。さらに、持続可能で公平なケアの提供を通じて、社会全体の健康や幸福に寄与します。
- ・ **課題と今後の展望**：ETICは理解や認知の不足、実装コスト、評価の難しさ、持続性と拡散性の課題に直面しています。これらの課題への対応策として、ETICに関する教育や研修の充実、コスト効果分析、データの質の向上、持続可能な資源の確保などが重要です。今後、ETICは理論的枠組みの強化、実践的応用の拡大、社会的インパクトの詳細な評価を通じて、作業療法の新しいパラダイムとしてさらに発展し、より多くの人々の生活を支援することを目指します。

あとがき

本レポートの作成にあたり、筆者は最先端のAI技術であるOpenAIのChatGPTおよびGPT-4を活用しました。これらのAI技術は、レポートの初期草稿の作成を支援し、新たな視点を提供するとともに、構成の策定に大きく貢献しました。AIによって生成されたテキストは、筆者自身によって丁寧に読まれ、必要に応じて修正や校正が加えられました。このプロセスにより、AIと人間の共同作業の可能性を探り、より洗練された内容の構築を目指しました。

本レポート「エコテクノロジカル・インテグラティブ・ケア（ETIC）」では、作業療法の新たなパラダイムを探求し、その理論的枠組みと実践的応用について深く掘り下げました。この分野における未来の可能性を探る一方で、現実の課題にも目を向け、実用的かつ革新的な提案を行いました。ETICの概念が、作業療法士や関連する専門家、さらには広範な読者に対して新たな洞察を提供し、本分野の発展に貢献することを願っています。

また、AIの活用によって、研究者や実務家がより効率的に情報を処理し、新しいアイデアを生み出すための手段を提供することも目指しています。このレポートが、技術と人間の協働の一例として、今後の研究や実践において参考になれば幸いです。

最後に、本レポートの作成にご協力いただいたすべての関係者に心から感謝を申し上げます。皆様の貴重な意見や知見が、このレポートの質を高める上で不可欠でした。ご支援に深く感謝いたします。

付録１：作業療法のパラダイムの変遷と現状の課題点

付録１では、作業療法の歴史的発展をたどり、現代におけるその課題と展望を探ります。作業療法のパラダイムは、社会の進歩に伴い進化し続けてきました。ここでは、その重要な変遷を紹介し、各時代を特徴づける主要な概念を解明します。

パラダイムの変遷

- “**道徳療法パラダイム**は、作業療法の起源となったパラダイムです。19世紀末から20世紀初頭にかけて、アメリカで発展しました。精神疾患を持つ人々を社会から隔離するのではなく、作業やレクリエーションを通して心身の回復を促すという考え方でした”¹⁾²⁾。“作業は、人々に目的や価値を持つ生活行為を指しました”³⁾。
- “**機械論的パラダイム**は、第二次世界大戦後から1970年代までのパラダイムです。医学モデルに基づいて、人を機能的に分析し、障害や欠損を修復するという考え方でした”¹⁾²⁾。“作業は、人の能力やスキルを測定や訓練するための手段として用いられました”³⁾。“このパラダイムは、日本に作業療法が導入された時期と重なります”⁴⁾。
- “**作業科学パラダイム**は、1970年代から1990年代にかけてのパラダイムです。作業療法の原点である作業に焦点を戻すとともに、作業の効果や意義について科学的に検証するという考え方でした”¹⁾²⁾。“作業は、人の健康や幸福に寄与する生活行為として再定義されました”³⁾。“このパラダイムの中で、人間作業モデルやカナダモデルなどの作業療法理論が開発されました”⁵⁾。
- “**占有パラダイム**は、1990年代から現在までのパラダイムです。作業を単なる行為ではなく、人の生き方や存在の表現として捉えるという考え方です”¹⁾²⁾。“作業は、人が自分の人生に関わることを選択し、実行し、経験することとして定義されます”³⁾。“このパラダイムでは、クライアント中心主義や社会参加などが重視されます”⁵⁾。

現状の課題

- ・ **”作業療法の定義の変化**：作業療法の定義は、時代や社会のニーズに応じて変化してきました。しかし、作業療法士の中には、従来のリハビリテーションのイメージから抜け出せていない人も多いと言われています”⁶⁾。作業療法は、人の作業的存在としての全体性や主体性を尊重し、活動や参加を支援する専門職であるということを、自らも理解し、社会にも伝える必要があります。
- ・ **”作業療法のエビデンスの不足**：作業療法は、個人の意味や価値に基づいた作業遂行に対する支援を行うため、その効果を客観的に測定することが困難な場合もあります。しかし、根拠に基づいた医療(EBM)の流れの中で、作業療法の介入効果に対するエビデンスが求められています”⁷⁾。作業療法の理論やモデルを用いて、作業療法の効果を科学的に検証する研究を増やすことが必要です。
- ・ **”作業療法の普及と振興の課題**：作業療法は、多様な領域や環境で活躍できる可能性を持っています。しかし、作業療法の有用性や役割が十分に認知されていない場合も多く、作業療法士の活用が限定されている場合もあります”⁸⁾。作業療法士は、国民や関連団体などに向けて、作業療法の特徴や貢献を啓発するための活動を行うとともに、自らも新しい領域や環境に挑戦することが求められます。

この付録を通じて、作業療法の過去と現在を理解し、これからの課題と展望を明確にすることができました。気候変動、高齢化、デジタル化などの現代の複雑な課題への対応が不可欠であり、新たな作業療法パラダイムの構築が求められています。これにより、医療とケアの全体像に革命をもたらし、持続可能で公平なケアの実現を目指します。

参考文献

- 1): 田島明子:日本における作業療法の現代史-対象者の「存在を肯定する」作業療法学の構築に向けて, 生活書院, 2013.
- 2): 吉川ひろみ(編集):作業療法の話をしてしよう-作業の力に気づくための歴史・理論・実践, 医学書院, 2019.
- 3): 日本作業療法士協会:作業療法学全書(第2巻)改訂第3版, 協同医書出版社, 2009.
- 4): 山根寛:日本の精神科作業療法の歴史と現状, 日本作業療法学会誌, Vol.38, No.1, 2019.
- 5): 田島明子:作業療法の世界 第2版, 三輪書店, 2004. : 鎌倉矩子:作業療法 パラダイムの変遷と現在の課題, 作業療法ジャーナル, Vol.37, No.3, 2018.
- 6): リハ業界のパラダイムシフト(3)定義の変更と活動と参加とOT
- 7): 20世紀から21世紀にわたる日本の作業療法研究の推移 —学術誌「作業療法」のテキストマイニングによる分析—
- 8): 2021年度重点活動項目 新しい生活様式に適応する作業療法実践の推進と作業療法士協会の体制整備

付録2：作業療法AIチャットボットの開発

付録2では、作業療法のAIチャットボットについて解説します。作業療法のAIチャットボットは、ETICモデルにおいて重要なテクノロジカルインフラストラクチャの一部です。患者の生活の質の向上を目指す作業療法の理念に沿って、AIチャットボットは以下のような役割を担います。

- **情報提供:** 患者が経験する様々な状況や症状に関する情報を提供し、理解を深める手助けをします。
- **初期評価:** 患者の自己申告に基づく初期のニーズ評価を行い、適切な作業療法サービスへの誘導を行います。
- **自己管理サポート:** 日常生活の中での自己管理や小さな問題への対処方法をアドバイスし、患者の自立を促します。
- **リソースの案内:** 地域社会やオンライン上で利用可能なリソースへのリンクを提供します。
- **エンゲージメントの促進:** 定期的なリマインダーやモチベーション向上のメッセージを送ることで、患者の治療プログラムへの参加を促します。

このようなAIチャットボットの導入により、作業療法士はより複雑なケースの管理や、直接的な患者ケアに集中できるようになります。また、リアルタイムでのコミュニケーションが可能になることで、患者との関係構築や継続的なサポートが容易になります。

AIチャットボットの開発と実装には以下の点が重要です。

- **倫理的な設計:** プライバシーの保護、患者の自主性の尊重、透明性の確保。
- **カスタマイズ性:** 個々の患者のニーズに合わせた情報提供が可能な柔軟性。
- **アクセシビリティ:** すべての患者が利用しやすいインターフェースとなっていること。
- **エビデンスベース:** 提供する情報やアドバイスは、科学的根拠に基づいていること。

筆者は、作業療法プログラムに特化した「**My OT AI Assistant**」というWebアプリを開発しました。メッセージを送ると最適な作業療法のアドバイスが受けられます。PCやスマートフォンから無料で使えます。以下のリンクとQRコードからURLを読み込んでお試しください。なお本アプリは試用段階ですので、仮想事例として情報を入力して下さい。氏名や住所など個人を特定できる情報は入力しないでください。

My OT AI Assistant



(Image:DALL-Eより出力)



<https://openaiapibotot4-g5fss4wut74mgxn3s7xbu2.streamlit.app/>

今後の作業療法では、このようなAIチャットボットが患者とのインタラクションを補助し、より効果的でパーソナライズされたケアの提供を可能にすることで、ETICモデルの実現に大きく貢献することが期待されます。